# 延齡松詩歌後集　全

洋学文庫
文庫8
B 129
2

39- 8025

書博士加茂保誠

# 延齡松詩歌後集

周防乃國長沢の池乃
ほとりに生たる小松を
源齋息ていとをかき
比根おしてた道むき
なる殿のまへにうへし
植られしのち茂ゆく
よろつ葉あまる王家の
あるしにゆゑよし哉

なかく家に伝はむを祝
ねきかけるに彼延
齢松と名付られしを
きゝて

醍醐権大納言殿

名におひし齢をちきり年をへて
いやさかえある松の千とせに　輝弘

姉小路権中納言殿

彼ゝむかし栄ある松の千世の
名にこそ齢も宿のかたえ　公遂

万里小路右衛門督殿

幾ちよ風ひとにあふけりや
ふゆしも色かへぬ松のえ　正房

伏原三位殿

すえ松の千度木芽つゝも緑にて宇
こは仙人のすまゐしかな　宣條

七條三位殿

松の葉にちよを年を老らくハ
かな末葉ちかきへやは紀朝　信元

清水谷権中納言殿

老ずらむ風も見ゆ仙人すみか
よそさの鳴のきこゆなる　公正

野宮権少将殿

古にしよりかはらて千世へむ宿なれや
名におふ雲路のへつも　定功

石井少納言殿

雲の苑千々の里咲る千世乃緑ぞ
よはひを延て松ふとも深緑　行光

綾小路侍従殿

老の身よりも末とほく契れる須
百川のちと緑をとめめにこめて　俊資

千種大夫殿

名にしのひたへはあれとは松か枝乃
まさきの葉そ世ゝにふるしかまく　有文

一條左大將殿

詠延齢松

正二位忠香

幾千代と梢の
いろも深みどり
まつハ千とせの
陰そ
ひさしき

御室御所法親王

[illegible]

萩　山縣亮

卉木之生必資于水得以致其暢茂不然則不彫然枯者鮮矣凡物皆然豈獨卉木而已哉臺道村上田氏之庭有一松樹焉薩今侯嘗取之於長澤湖畔而所植後又命名曰延齢之松夫長澤之爲湖延袤廣大水波汪〻松之環湖而生者資其滋潤莫不皆暢茂也然則松之宜於遂其生者當莫彼若也且侯之所有三國亦皆瀕海〻持水之大者已魚鹽産焉寶貨出焉乃資于此以潤其國而闔境豊饒民物冨庶是以建國以來七百年于今矣屹然不動是其國延

齡之永他疾國之所不及夫松之在湖畔與疾之占海國均有資于水焉是氣類爲相同既同其氣類疾何不思所以使之遂生而反取而移諸上田氏之庭也盖上田氏之居距湖不遠是以其水脉流通於地中而松之資于潤猶在湖畔乎且夫湖畔之松不知幾千株其小也困於牛馬之蹂踐及梢長或有夭於斧斤之剪伐然則欲延其齡豈不難乎猶此松入于上田氏之庭外無剪伐之患而內不失滋潤之養其能經千載枝凌雲而幹成龍鱗者可知矣由此觀之所謂宜於遂其生者不在彼而在此也上田氏世以釀酒爲業酒之於水亦類也乃資于此而家富財豐愈久愈昌者豈有異於此松哉於是乎知疾之所以名松者乃所以併名其家也今玆余漫遊也訪上田氏而飲其酒而觀所謂延齡松者聳然特立翠陰覆庭及其記之自覺如其酒勁洌之氣有發而助之此或與松同資其潤也則雖公厲之文亦安知不傳久而延其齡耶

京　賴醇

欝々長松落驛門感曾君子手栽恩往來願宿翠陰下閲到疾家千萬孫

萩　宍戸真徴

さみたちておひさきこもる松の戸にむかへん君か世をへぬへき

大阪　高橋榮子

ちよをへんまつそたのしきみよしみてつもる君か枝々ん長ゆくそ乃か川

安藝　野田氏久

雪おもる霜のちるにも色そへて君の代ちきりとことはにさき

同　坂口村重

いかまつに栄ゆくことは萬世とみきりに仰くのことし栄の道

京　隈川春雄

いやたかき松の栄をうつしても老をまつのいちしるきこと

豊前　白石攸

萬乘手栽枝葉繁想知千載寵榮存鬱然已耐凌霜雪不須明君培養恩

讃岐　片岡琶溪

長松薩侯植高蓋覆庭園題詩爲君祝千歳綠陰繁

防府　草坪

延齡松鬱閑庭裡薩國幼君手所栽枝葉克含後凋色不知霜雪不染埃

安藝　望月重富

枝のさかへて君の本に千世のちくま庭まかせなき松のみとりか

安藝　大石良道

蒼松欝〻倚樓臺佳氣氤氳入檻來衆木風霜凋萎
日凛然長見棟梁枝

同　今中直信

孤松欝〻秀碧盧清風時動和瑤琴榮名千歲應無
極春到偏添黛色深

同　梶川訥

翩〻春鳥自西來霞佩雲裳倚玉臺一宿志應期再
會萬年枝上掛樸回

同　梅園一貞

聞道庭前有松樹千歲盤根似卧龍公侯士庶多相
慶已著文章又詠詩

江戸　秦謙

植節是公子老時茲大夫酒光似松露清應壽杯扶

安藝　花房春俊

雪霜に色もかはらぬ松の枝の千とせや君の齢なるらむ

大坂　有之

枝ことにときはの花を咲きはく松のよはひハ千世を十かへり

長寄　中嶋廣足

うこきなき紀州端の松ハちよの坂こえゆく君の志るへなりけり

高松三位殿

正三位季實

よろつ代を
松の言葉に
取添て
いまへや祝ふ
遠き堺の人

高松大膳権大夫殿

延齢松と言葉
わけ行しかはり祝て
もとは
千世
一度
従へしめと

まさひ
もとも
常盤木
へし
深宮

高松近江権守殿

はつせにへしふるのまいはやかされ名におふ松のよはひをしる

浅海遷校正雄

伊豫　真鍋家教

みつの枝し根引の松のことはさるを末とかくそちらへかすて

京　岡崎秀雄

おほせたる名をいふ猶し枝れそ付る八千代のちらのちぎり

讃岐　村井揷

田氏松名喙諸國傳聞曾是薩侯植主翁相守壽無彊不老輙同歳寒色

同　金光院金陵

聞説薩公子手栽幽砌邊時仍矮磨袖今已聳參天秀色皆爭賞榮名世久傳同人着題咏愧獨乏佳篇

周防　高橋延實

よろ人のよるひるきゝて陰に名もきこゆく千代の庭の松が枝

安藝　奥田在中

もろともにくちぬは延らん此やどの松の葉ごとに千代を契りて

防府　武田泰信

色かへぬ松のよはひとともに千とせにさかえん宿のゆくすゑ

筑前　由房

海山をへだてゝ遠きやどなから松の姿ハみるめつらしく

同　元女

さやかにてなかきためし長濱の松よためしに猶りさからハ

同　今泉言道

こほれその花のときくるなまつりんてらすやまの松が枝

同　貞祐

としのをはまさかれる松の下庵ハおもひやるまも千歳しこやかり

同　貞一

人はてふきゝしはまをはるとし実しぞゆつれまつのあるにも志かはら

同　貞則

きみが家の松をいはふことたからくらん千代の行ハこゝにまさる

同　貞

なつかしき松を相らし此宿の君のめぐみハちよ代をのそく庭ぬ

同　てる女

うま人のうつし植し松なれや千代をかさねてさかえむ之

薩摩　谷山國貫

散らさぬ松のことの葉くまなくかきあつめもかゝ
あつめぬるこの玉のこゑくを君もうれしとみそなはすらん
としくふ色そふ松も此やとのさこそ久しき君かうれしや尽む
きみかよはいはれし松の枝ゝに十かへりの花の咲藤世

大阪　小山魯

凌雪後凋叟蒼ニ翠益榮四時元壽色百尺自堅貞濕雨龍鱗動蓄風琴韻生高標留寉宿不背歳寒盟

肥後　内藤俊

薩侯他日手栽松未老其鱗已若龍今日亦停我君駕斯榮何減大夫封

防府　佐伯古城

南薩之公此駐驄移松遠自長皐東早看繁蔭堪遮雨預識高標欲聳空暁寉声過風細處春雲影落月明中應嫌秦爵汚清節不昧亭邊托酒翁

同　半癡生敏

蜿蜒宛似老龍蟠愛聽乾濤澄耳根珎重曾辞大夫爵孤高長占杜家園

Bij het aanschouwen van dees Sparre,
boom gevoel ik mij geneigd tot dank betooning
aan Hem, die het Heelal bestierd aan onser
aller koning.

Gij vorst van Satsuma gij plantte hem
in u jeugd.

Gods goedheid deed hem groeijen
Gij zag hem van jaar tot jaar in deugd,
en in Schoonheid bloeijen.

Zijn bejaarde kruin steijgt thans een lom,
mer al dikter als een sieraad van zijn geslacht en
tot eere van zijn stichter. O! dat geen storm,
nen woeste orkanen en wisselvallig hein u
krenke moog, op aan u ouden bom knagen,
maar dat gij eeuwen lang na Gods wil be,
hagen bestaat gelijk op dees stond, o mijn op,
rechte heer en dat, o vorst stam, ook eeu,
wig soo mag bloeijen; Dan sal u nage,
slachte, wat onheil ook moog boeijen, bij



het aanschouwen van die boom en
schoon dat hem omgeeft, dankbaar
gedenken aan Hem, aan wien
die alles zijn bestaan te danken
heeft.

カピタンヒートルアルヘルトビツキ

Desima, den 5: januarij 1845.

右の解

此松樹を望めハ誠に天地の化育萬物の養成を感ずるなり去る薩州の太守御齢幼なりし時此樹を植給ひしに其まゝ天地乃恵厚く年を追て随ひ成長しつゝ久しく いよ〳〵老成をしに枝葉もいや増し其陰欝々として繁茂せり是此樹の並木に秀出る程にして且植給ひける 太守此御繁昌の基とも言べし嗚呼稀なるかな数十年の今までも逆風暴雨の災害なく又図らざる変ありしもなくして無異安静に年経ぬるハ天意に叶ふなるべし嗚呼敬賀すべし植給ひし 太守も松と齢を同うして行末長かるべし恙渡らせ給ふことなくして御代萬ゝ栄給ふまでも目出度栄え給ふなり此松の盛り妙なるを望めハいと有りかたき事なりけり

和蘭暦数一千八百四十五年正月五日

ひじん むいとるあへると む川き

解者

長崎 楢林某

岩瀬某

Dees Spartenboom tes beeto van Cü,
derbom en kracht, Schenke ü nog een aan,
tal jaren tes genot onder Zijn lommer te
rüsten, hij zal na meer dan Duizend ja,
ren nog aan üwe Nakomelingen tot lerin,
nering strekken dat hij door eenen Edelen
Vorsten hand van een kunner voorouderen,
op deze plek aan den Schoot der aarde
is toevertroond. ——

Desima, 4 Januarij 1845.

カピタン筆者

右の解

此松は貴き方の手づから此所へ植置たまへるよりも
うくる葉栄えしそ御代萬代までも松の木陰まてろ
あるべきな

和蘭暦數一千八百四十五年正月四日

筆者阿蘭陀人
はるばるきたる唐よみえあをよみん孫までかたる処

解者
長崎
楢林 某
岩瀬 某

千種三位殿

近頃於方くしとて
こころより
近三位奇功
時人は云てる迄
おの月厚他に思し於

名月之故多め
住ら於於
三品

京　座田維貞
いくちよもへぬ色紀名を我まつしきれとさらに松のことをかさねて

肥前　加藤玉粲
わか世をも千世まのふやとやりて久しく名をふくるのやまん宿の一もと

防府　權代盛貞
敷島風吹よせて玉松の玉よりまさる紀色の中になをうきさしく

京　矢盛教愛
玉松のよはひもながくあかき公の池をそのみかりうつる影哉

同　高畠式部
松風のおとそえて中加ハよりハ浪まへまつきまつやまつ此庭のつゆやく

秋　北條氏燕
誰栽松樹薩摩公　蓋影横檐自鬱葱
閑坐清陰聴天籟　齢延不昧一庭中

東條惟適
庭松不昧翠陰新　勁節延齢比主人
蓋覆高檐棲白鶴　長看千載老龍鱗

筑前　はちめ
うつしても君のいさをの池の松を遊くも加色まもられの見さん

江戸　清水謙光
末とほくよはひのふへき松なれハ萬代經とも色もかはらし

豊前　名村正章

不昧者心耶此居是以名田氏世冨豪所以播家声
庭階松數株楨幹各挺生枝條互飄逸偃蓋且縱橫
風前龍蟺蜒雨後玉餘清數入騷士詠表顯公侯情
寧ニ同蒲柳質徧為歳寒盟亭ニ文森散奇趣日月成
主人向予謂此物勿相輕薩國名公子欽愛表貞
搴裳遊其傍盤桓意頗傾聊此裁五字併旌萬年榮

土佐　堀内衡

冒雪立嚴冬可知靈秀鐘長成梅竹伴常接鶴龜蹤
滿地四時碧凌霄千歳濃雄風吹不斷君子手栽松

防府　村上充實

大道田生宅閑庭松作叢色分姑射雪幹動蘭臺風
裁受薩公澤封應秦帝同賦詩强塞責堪耻女兒聽

讃岐　中村耕月

薩公曾植一株松鱗鬣恠他蟠翠龍壽福千秋與君
共子孫應受大夫封

江戸　石黒貞女

手をふれて植ゑし松の生ひさきは千とせを經つゝ八千代とや

同　萬福行

二葉より千とせかさねて此そのゝさかえとも見ゆ松のすゑのまん

讃岐　柳燕石

老幹崢嶸蟠虬龍嘉陰想見滿庭濃大藩公子卅棠愛一洗當時秦帝封

仝　國子誠

長澤元知産鮫龍盤根託壟一株松當時忽得風云勢直捲濤聲嘯九重

伏見　今堀真中

うゑそめつる君がさかえを鶴よりも千世のちぎりや松はおもはん

京　高田真鋤

こゝろして千世のためしとさかえまいはひて松のよはひのそへん

讃岐　釋梅塢

公子從栽幾歳餘清陰愛看覆庭除渠儂猶能念恩否擎盖似傒長者車

防府　南部彝

薩藩公子過山陽客舍栽松水一方曽借光輝榮陋巷屢承雨露仰天潢期將梁棟資高厦寧與芳菲媚錦障六月行擔此憩息緑陰蚤已是清涼

筑前　臼井茗圃

薩藩公子此留車松樹移從長澤涯不昧主人真不昧亦教孫子華生花

薩摩　長崎枕流

うゑおきてさかゆる松の枝ことにこもれる千代を君やかそへん

周防　上田比佐種

千代の友侍ふ家も人これもよはひのふてふかまりのしたかけ

薩摩　松木宗保

十かへりの花さく迄も松ひの色てうらんもちの君かよろつ世

同　長野祐喬

ゆきえたやものしけき緑まさりきて久しくみえし庭のまつの枝

防府　鈴木直道

うゑし植しその人の名ともろともにさちさかえたる宿のまつかえ

土佐　岩井真證

いにしへもゆかしかりける人の周防の國は長濱のつゝみよたまし池の辺に二葉の松をねこしつみてまゐらせて草枕旅のやとりの千稲生ふ上田の翁のそのふにしうつし植ゑる夜より代々さかふとし桜の松のみとりをそつあまたとふ志をさひさちて萬代を池の汀よ老亀のつたなきうつし木末まてたか舟のたゆも松も立て千代よふ声ハ松風よひゝきあひつゝ住む人の齢をのふる例よと花よおい勢ある松のむともや

反哥

うゑ人のこゝろそゆるされんその松のゆゑよしきけハあやまよそとし

薩摩　鮫嶌黄裳

吾公曾殖寸苗松繁茂經年青黛濃偃蓋蔭深栖白鶴蟠根苔古養蒼龍濤聲起為清風起雲影重因咨葉重請看延齢千載色佳名不讓大夫封

長府　臼杵申

掌大庭中百尺松蓊〻張盖四時同徳輝添就公矦澤分與延齢付此翁

岩國　香川湘南

入雲青盖影重〻陰露滿園佳氣濃愧我寄題無好句十年耳熟延齢松

防府　五十君夷守

うゑさせて君が遠き小松もあまつの千代のためしとみゆる哉

大坂　髙橋壽久

ちとせに齢をのぶる君が為しとて松はさらにいろぞまさらし

岩國　米元基理

志ろあふ松は冬も此世やはるとなるさいのしるしなる絲世

江戸　石黒常轉

大空も高く聳えて北海にはるく深き大空と共に
えて共に海の水もおいて庚やそて世にもふみさを
ましきくなるまろ松の形

おほ松のみさをの色くらゐをなすむれハ君かちとせをしるうらやまし

薩摩　中山實美

うゑてまつとしのみとりハみえなから千代のさかえをまつ陰のやと

大坂　榊清蔭

あれはまた心をなくさめつ植し千代のうへの庭とはまた緑り枝

清末　教之

幾千代も長濱の風ふひく松のよそいろもかふやとふみやせ

肥前　小嶌其

手すさひに植し一もと志かりいてちとせを松のともなりけり

江戸　前田夏蔭

賢公手植一株松
四十餘年積翠
濃雲繞高梢留
白鶴千秋不改

歳寒容

右題周防國臺道村
上田主人延齢松此
松原是太守公所植至今已經
四十餘年故取延齡
爲名

琉球國

中山鄭元偉稿

土佐 安光確

薩侯幼植數尺青公當國日龍形成佳名再賜延齡
唱欣喜羨君厚恩榮曾知慶元天収武幕下美稱推
松平候伯往ゝ冒其姓天下生靈幾延齡薩侯元來是大
鎮傾心輔治見忠誠植松延齡豈徒爾國運暗佑松
平名君合其會是何幸長聞松上龍吟聲

薩摩 山本國郷

立よれハ松のちすり代旅ころも千代の陰まてきつなまけむ

なみゝれ松もろそ久しき長浜れにうみも今も根さし妙なれ

一もとを一本ひなからちとせ經ハちくさむやなきん松のしけきを

伊勢 釋摸堂

芝蘭玉樹玉壺中別秀庭前十八公雪壓霊枝寒不
改鶴棲清節壽無窮凌雲偃蓋興龍雨嘯月蟠夜生
虎風昔聽薩侯來手植大夫何恐有秦封

肥前 柴田三生

陰きる紀初場の松を千代乃坂たえぬきみかしるまてをよ

京 村上とよし

植し人の千代万代をときはなる松のみとりにちきりおきけむ

宮嶋 徳田守禮

松乃糸やこそへもよゝおしち代乃ちる

岩國　森脇九華

防州臺道上田氏宅有薩侯所手植之松重蔭覆屋主人夫妻子女皆風流閒雅朝夕與共團欒其下而琴瑟相和其樂可知矣四方學士大夫及緇素從而歌詠之凡二百五十餘首集成一冊平安皆川淇園賴山陽皆有記併上諸梓以布于世今茲天保甲辰二月友人杜君子敬奉君命使于長府途中訪上田氏而觀松話及山陽記主人欣然出其真蹟以相樂臨別又取夫一冊上梓者以爲贈云頃者子敬諸社中二三子詠上田氏之松因索予文將以酬主人之惠予謝之曰文豈敢抑有慨焉先是文政丙戌予亦嘗西征路由臺道有土人指一門牆曰彼上田氏也彼松薩侯所植也時予意匆匆過而不顧今閱夫冊有奧之人有羽之人以奧羽極東之人尚有寄題予則與主人同州之人何不一句及夫松然而未有望其門牆則可既已望之未有知其薩侯所植則可既已知之而一句不及焉何也且予敝廬亦倚松而居焉乃與主人同所愛也何不推我而及彼是所謂無緣者乎亦何已甚今據淇園記薩侯植松實係寛政丁巳乃予生之歲也予於夫松有如有緣者矣而其

無緣如此焉得不疑嗚呼噫嘻物各有類自丁巳至今甲辰四十有八年矣予於世不能有寸補事每蹉跎聲名未聞里而我有二古松相繼摧為薪矣惟存五六小松長僅過簷若夫薩侯所植上接雲霄白鶴來巢而主人為其重蔭所庇夫妻子女風流傳乎海內彼於彼類我於我類彼之與我蓋非其類則其無緣固其所也今有子之需因陳其無緣者是亦未可全謂無緣者邪遂書此以與之

同　樋口鮮庵

不改歲寒姿乾〻無四時天呈斯吉兆壽考還無期

同　境竹所

西遊未歸廿餘歲白水青山夢空濟也識君家名於松何隨清陰聞鶴唳

同　朝枝一貫

松の名を千代とよふなるかくらん常盤なすまつの風乃おとそ聞

同　坂本雲耶

公子移來經幾時一庭龍影歲寒枝寄題今日知多少外史山陽曾記之

同　朝枝文言

たえもちらぬみどりいろと長澤の松はたとへとおもふこそやれ

寸條尺餘曾孰栽遥憶周南臺道限今日驛途多少客無人不道見松来

同　藤田葛潭

うつし植て傳ふるさへ庭の松いくよも契る齢なるらむ

同　安達九霞

移植稱松春幾春偃蓋重々老龍鱗山陽外史淇園叓咄々好辭先着鞭鄉相侯伯四方士宋體明様競飜唇神飛未結西游磯官海十年奈漂淪吾友杜生使長府門前停馬何善因問松觀松聽松故小册帯帰傳近鄴冊中時有龍吟響喚起詞客與文人探句摘章非吾事沈吟一夕亦効顰湛露盈々風颯々松陰濃處坐團欒緑酒金尊興不淺吾醉放歌君弄絃恍乎夢境醒尚訝一穗殘燈冷枕邉

江戸　荒尾成允

月と日にてらふの花もさそひていやさかえなんやとの松の枝

岩國　香川江牧

大つかさまつ手をいはふのくらゐ名に久しき君をそへて千よまで

周防　釋玄阯

薩國貴公子手栽庭上松葉繁栖白鶴根古卧蒼龍朝聽風煙起暮看雨露濃歲寒猶不改緑色幾重々

讃岐　奈良松荘

公子手栽何所後後榮會與此松齊兆情亦應感恩
遇千歳相顧枝向西

江戸　時言

はう世の光にあえぬともてらされるゝにやハそれさへよ
ちよのふて栢松の木もあやしいゑをそ松のもとねさし
をいのそらも思ふよしもなくも深といへるあたりなる砂の尾上よりも
まつやまにかしと紀人のみなつかしき松の實ひろひて種まきさて土の
ふ河にまうて二葉松ひ出よりまゝこと小積ハ千く久しきもそら
ますけ見殊にまつえハいろくあをう孫の土をおほひて定
三らえ朽るものみとりにかはらぬときはなるそのまゝにあ
えやはし名を世の人のふるこゝとを紀よまへはまゝはへえまし
くりあるれその種をうつて松のみちさあはふしいて大きも
もとれ木きにことれる身はや松もし公も広くれるその陰
にやとし光て仰くむきてとも使ぬきらまなあえ深くなりた
てるまのよろしを齢ひまくいく十々年もかぎり成る身
なるそる松の名なるを名まて乃好るハきみがよそに成るらむ

越前　宮國幹

一移長澤色幾值歳寒新吐霧生龍影含風拂俗塵
曾傳公子駕日接雅賓唇不待秦皇賞早容避雨人

小倉宰相中将殿

高人何歳植庭阿
閲道蒼々作丈柯
松下幽亭招騒客
清音日々伴吟哦

藤豊季

錦小路中務少輔殿

春穐乃花も紅葉も一盛
まつそ千代乃以路も古とし礼留

頼易

伊勢　足代弘訓

むとせはちとせ経まつの松か枝を齢のうちとはしてこそみよ

紀伊　本居内遠

松か枝のちとせにかさねてをには庭の高砂の松もおよはし

豊前　小知女

うつし植し松枝をも君の御積盛りしてみち代ちさかふる齢

萩　西村寛言

万代の千歳と植しかたみにはいくとせ色ても萬松かしく

肥前　田嶌一中

このやとに千代をなしふる松かえた根さしも深き恵みとを経る

相摸　平尾信穜

立よりて我もあえなむ老人の齢のふてふ松の木かけなし

萩　杦山美季

いつまても千代を経ましを長浜のなみまきはあるまゝ松はいら経雲

京　玉田永久

千万代齢のふてふ松か枝にきみかちとせやちよらみ千歳

因幡　釋正音

植よなむ君か家に千万代にあえてさかゆる松そ名高き

長門　竹内竹叢

月雪花もほかうしや五月松

豊前　八條半坡

周南上田氏庭松瑞氣濃根株深且固直上勢凌空
薩公童丱日東征儀衛雄戯嬉驛路側手自栽稚松
携來憩此亭種之前庭中尒來幾十霜柯葉轉青葱
來往人盡敬何羨大夫封況復後彫質長伴主人翁
翁自有仙骨壽考與松同鬢髮已為鶴松亦欲作龍
請君食其實又分遣薩公與公俱保壽千秌樂融々

讃岐　奥　邦強

高幹盤根共數尋看知勁節與堅心生涯常抱凌雲
氣不畏歲寒霜雪侵

土佐　南部巖男

周防なるよしみのやかたの木の本にちよとそふらしけさのみとりも

同　池田為爽

あつま路に旅のやとりの殿のうゑし松か枝もとみをいはひてかはらしとく

同　野村術楢

仰みるこゝろの葉も萬代に咲栄ゆ庭の松のさかゆくの枝

同　渡邉條

家名は四方にかくれなき庭の松かえよくしなへかきの松をまきくひたふ

豊前　五雲

みとりさへなつきに香をまつのもと

十かへりの花見し松の枝ことに千代のよはひを君ぞかさねむ

土佐　徳永千規

ちとせにも千代のかはらぬ松はいくたびの春老のみどりを見む

同　北川善淵

松風の音さへちよとなるよ宿にしくてちよやときはの一つ枝

同　澤村春泉

蒼髯風吼一株松
夭矯宛如將躍龍
雲影搖々鋪地亂
濤聲譟々在空濃
朱衣應仕梁朝相
好爵寧無秦代封
節操人間誰得似
千秋不改歲寒容

筑前　原瑛

徳山大夫殿

延齢松

二葉よりおひそふ雲のはるく
ことしも千代をかさねん廣鷹

其殿男房

宇恵しより
いく世へぬらく
吉乃松は
よろひ本多く
志きる百川
かえ

清末　入江授

公子曾従薩國來一移斯樹此相栽條含霊氣嫩秦
爵蓋起雄風排楚臺鶴影飄時華露散龍鱗巻處瑞
雲開盤根猶自餘恩澤長使流膏入酒杯

土佐　前田及

もゝ人の齢も松の千代にあひて植しみ陰にしけるやとりの岩

同　松本弘蔭

はるかやしやとる松の枝に流そて　いく流の浪も八千代経てまし

豊前　甲樂城安俊

齢をも延てふ松を移しそめて植る君や千世を経ぬらん

大津　船越守愚

曽訪尊翁接酒卮盤桓尚記撚霜髭松鍼叅羽共繁
茂今日新陰添幾枝

京　閑全

月華も鶴もやとるや松のかし

筑前　釋峻嶺

古人何所愛我愛後凋松含翠風霜傲吐烟枝葉濃
呼為高士友不羨大夫封雲雨林園曉時々認躍龍

長府　兒玉信與

移松名苑裏何日作龍吟已帯千秋色枝々翠結陰

土佐　伊部中世

護高砂松の根志めく住吉の人の影もうつりあふちとせや

周防　三宅睍定

色かへぬ護ますあるを松のみ名も影のふてふ庭そ見まつのえ

信濃　千村重騎

立かへて見る人ことに千代のはくよはひをのふる庭乃やちよ海

豊前　佐藤弘宗

二葉より影をの色に雅小松の庭にそやとに千代や経ぬ色そ

肥前　待勧

老のよわい枝多む人の影をものへてそのえに庭の眞川の枝

長府　田伴経

公子留車酒肆春移栽庭際翠松新従今千歳行應
茂風作琴聲樹作鱗

備後　粟田孝械

松盖掩庭書牖深清音細々接琴音世子手栽應有
意令君長伴出寒山

豊前　釋無窮

培植孤松樹森々古砌中更思秋月夜閑坐聽清風

竹軒

栽得長松樹清陰日以深羨君風雨夜飽聽老龍吟

山城　燕石逸

不昧園前百尺松雄風當檻緑陰濃栽来世子千秋
跡青葉如雲又似龍

京　可亭

檜前幾尺延齢松葉々枝々翠色濃計識千年繁茂
後半天蟠屈老蛟龍

美濃　釋霊淵

薩侯遺愛欝青葱十八公栄誰比功葉密三春遮驟
雨陰濃六月引薫風秋聲颯似波濤闘寒色偏凌霜
雪雄四席賞觀終不改羨君保壽比君同

出羽　神保格

栽來已十八公本鎮雄邦繁杪常棲鶴蟠根自作龍
即今幽客愛維昔大夫封請看歳寒色翠煙雪後重

飛去

屈曲古松自蜒蜿嘯雲嘯雨眄眼前一時若遇風雷
怒只恐為龍飛九天

周防　福田次常

傳聞田氏愛孤松寒歳後凋柏與松飛雪似花連緑
竹瑞霞如畫懸青松黃鶯求友戯梅樹白鶴引雛巣
老松德等芊棠公所植壽名況賜延齡松

肥後　南條長恭

聞說延齡松來由誰抽誰栽是薩侯舞鶴栖鸞弄勤
搽偃蓋鱗條拔伴流松乎偶然得知遇光榮既勝主
一丘手書且賜延齡號瑞祥到此如何酬和鈞長傳
昇平澤薩隅日州及琉球

清末　飯田秋期

雄藩公子氣湯々手自栽松庭一方請見千秋無限
色清榮猶與主人長

播磨　田中童

鬱々庭松樹昔時公子栽今看恩寵厚終是棟梁材

勘解由小路資善卿

雄将手栽歳已久
凌雲気象満枝梢
桐陽

江戸　海野遊翁

松てふ名はつくれとも松のつきせぬ千代を重ぬるよしもかくて
なかくひさしきちよふもけちもなくさかえゆくなれは
高砂を君の住をのへに松根さし繁るたらちねの松
実はむへしも千とせも久しくかきりなきよりもひのかみ先君の千世
重ねそのよはひもあくを枝葉しけりてとこしへにきみのみよのむ
かしおほへるらし

なかきその種を植る松ならねと万代ふるちよの君か栄は

同　久松祐之

君かよにみさかりの小松をうゑしよりつきせぬ千世を契るなりけり

のふら郎く影よ松も萬え清く君八久くみ世幾世經ぬる葎

大坂 森重の子

京 城戸千楯

さうえ切君うよそひ八吟くれよ友とみゆやのふや志ふふ世

防府 今津謐

貴庭松聲動四隣今日始得見其真薩侯手植翁手養枝葉扶疎度幾春翁日携酒遊其下清韻雅情互通神松自忘翁々忘松孰是為主孰是賓嗟乎翁人中之松々即是樹中之人願得千載俱延齡一家繁榮長相因



大原少将殿

宇治しら気し砺乃雲清子世志めて宿のゆうえも色にミ江ぬし

重成

周防　河埜通定

まつの江の名を長浜におひそめてちよにしられし松のことのは

京　釋清香

まれにみてたまはよはひをのふといふ松の名まにそ我もあえなめ

同　頼攸好

霊根秀碧即看真雄勢凌雲不易訓長嘯一聲風雨夜飛騰却怕起龍鱗

尾張　原辻

一樹青松透驛亭薩公手植試延齡年々著緑蔭盤欝風起真龍吟満庭

周防　河村春窓

薩君昔日手栽松卓立森々勢若龍好免世間斧斤害千秋無恙緑重々

備中　亀陰

薩州公子過山村曽擢稺松栽此園休怪主翁多壽福長蒙雨露養霊根

伏見　臼井緜仲

植おきし君か八千代もことはれ松の名をはねひてそしらるへかりける

京　山根輝實

五百枝さし千枝つく世をいくよろつおもへそ御庭乃若松

德山　田中玄仲

數松相列畫堂前世子曾栽培養全葉々纔垂青蓋
欝枝々総帶翠烟連元知貞幹凌霜雪行見良材耐
棟梁五馬重當停駕日風猷頌就掃如椽

大坂　釋飲流

公子風流此植松逐年繁茂色偏濃蓋成看欲棲仙
鶴幹長行將學老龍尊筭堪期千歳壽榮歸奉祝大
藩封賀君庭際連嘉木迎駕洪陰設禮容

京　釋大室宸

虬幹未盈尺已見凌霄氣流膏入儷鼎欲古幾春秋

備前　梅煙村

聞道庭上公子植蟠根忽作老龍鱗從來自得王侯
愛是爲主翁風致人

同　鴨井長洲

維昔名侯手自裁主人敬愛棟梁材想君知伴蒼髯
叟長見千年述職来

薩摩　左近亮蘆洲

月の友となる亀井戸のよそひの邨

肥前　鍋嶌茂延

ちよちよとふみならしきて此松のそは名もたかく千代を亀井戸に

伯耆　兒玉玉立

松樹庭中在薩侯試手栽々成孤立秀忩有仙禽來

京　谷森種案

よ川の名は千世よつて庭にたまれといふことを知ぬやとの松

讃岐　菅惠羨

庭の松君かよはひにあえてこそ千とせの翁はかはらぬ緑

同　三宅遊哥

志るし有君かちとせを松の名におはひそのふに庭におほえて本

防府　藏重高訓

嫁きさきて鶴風もちとちはまつはらはにあくやかに庭の松かえ

近江　髙嶋髙陽

うつしても幾よはひのまさるためしにはこの松をおさての外とてもなし

肥前　葉山玄行

雄藩世子龍潛日税駕従容手自栽方今定識多良
引驛舎猶餘梁棟材

京　小野政敏

傳聞公子植庭蹊龍鬚蒼々盖影低不啻人間引霊
籟常令仙鶴作幽棲

常陸　小林教

聞説周南地薩公船植松夭矯閑院外千載見飛龍

やく末もちとせとよはひを二条まてちとせを残まつそみてこりやまける

京　尼蓮月

かきおなし行の菌生ふ末とめて千世ふさうきはまそれ万川風

同　金剛城院周澄

千代のことはよをなかれて長津の池よりうつ川ふ松のことふえふえ

同　井口須磨子

四十年前君手植亭々欝々既無類貞姿今見貫風霜又露延齢千歳翠

同　加茂經香

森々孤立延齢松影掩四隣翠色濃春夏秋冬風雨夜半蟠雲外半成竜

周防　上田新

田氏庭中松薩侯所曽裁名之曰延齢永使主人培幢々正積翠行將棟梁杖松壽今年百半秩正與主人壽相匹幹直枝繁欝森々猶多子孫宜家室松愈秀曽家愈榮松千家千永貞吉歌之吟之欽且賀風流文賦幾巻帙我亦一句祝主人君家福壽得併術

羨作　服部芙蓉

千とせともかるゝぬ宿の松か枝を万代をうつきてさしつ久そ

萩　嵜田直言

よろひさくの世ふ松のしるしハうゝあ行めてまつきぬとの象

同　村田一枝

同　八谷通全

上田某庭有松樹焉曰延齢松名之且植之者誰也薩隅日大守島津侯也世謂忝壽千歳侯表于西海者亦且千歳乃名之曰延齢則此家富久余不識其幾千歳也雖然保冨者在勤與倹不在松與其名其子其孫念之敬之

京　什一

不昧庭邉任手栽太邦公子識全枚清風細雨千秋翠潤得龍鱗片々開

江戸　筒井政憲

物類人影入伴物卉棠魯檜稱無窮不昧舍砌蒼松樹薩侯曾親栽庭中更賜嘉稱延齢號迨今龍幹欲摩空偃蓋庇家人皆壽霊露潤屋物亦豊遊侶吟朋諶宿士西藩東官來往公藻客詞章騷人詠片帋尺素蔵滿龍憶昔茲松貴人植延齢嘉名寰宇崇積翠淩霜千載盛勁操冐雪萬年雄不啻喬松四時祿本支百世共葱蔥

稀ゆ恵しよろひ伐の八乃收小乃つ千代のはつえをこのやとしえむ

京　鈴木こま女

松か世のなかれとみとりくさく今よろつ世もみ庭のひとつ木かな

薩摩中将家の女房あきらこまれ君かたゝ八千年まて

つきせしとはなくて

わか君の千代のねさしに松をうつして今よりいくちよのはるとかへしまつる

江戸　仲田顯忠

きみかよのちよの野辺にむかへる松かえは八千代かゝるまてもたえのみとりかな

京　岡村酌守

幽園冬日緑重々公子曾栽一樹松丹藥何方化仙

鶴來觀千載汝爲龍

周防　上田弘明

みる世ゝに君かみきりの御代まて松もよろつ世の春をちきられ

同　林昌世

八千年は庭の一木に松のことき君も宿にあそふしらしも

京　藤原高景

こゝのへに千年をうつして十かへりの花のさかえむ千代に八千代ふ

同　進藤千尋

ときはなる松の緑うつしてかはらぬ松のみとりもかはらし

備後　釈物外

海山をこえてあらし千世に乃川

萩　玉井克所

源裔世子意從容逆旅中程植稱松日夜培養無解怠年々節操欲成龍鶴聲響度大道市家号繁榮恩澤濃延齡名聞傳万國雅人誰有不問蹤

豊後　村山宣直

千世ちきるやと栽そへし松の色ももゆる月にいろを残す人はも

安藝　岡田清

稱しるしとて植ゑくるゝそ松風もよはひを祝く千代久しかるらむ

同　埜村有年

いく世も栄えゆく松の名をたかくゆきかふ人をうらやみてゆくなり

京　比川孝貞

十かへりの花をかけて松の名もよはひを延る宿や祝ふらん年

安藝　市川音澄

幾久をぬ松ハこゝろも老せねハわかえなからに千代や色あら辞

長門　釈澄然

なら澤のなをきゝそへて引うゑし松そ千世とも祝ふらめなし

萩　玉井湖水

長沢の小松を君の植しつゝ栄のやとや幾くちよ代

防府　神田鷺暁

幾秋やうごかぬいろや庭の松

三ひら川ゐなき松や姫の手ほ

萩　石津皷流

見る人ハ影のふてふ松ありとみやこそつくるいはひるましを

同　坂祐頌

ミてつくる植しも君か千とせまてあひて松かえのときはなるへし

同　杉本峯守

小まつ原やよはひをのふる松の千世

同　内藤大泉

同　坪井源章

久かたのそらのうへまて栄ゆくしきみかよはひの松のことのは

よろつ代も君もあらしも長浜の松ならぬまよ千世をこそ祭

長門　木村重綱

うき世にも聲き君か千代をハ長浜の松乃聲とりてあそふらんの那

京　別所妙子

あまみとりさ浪よせくる庭の面ま千代のかくれ松の枝

長門　佐久間政方

ゐをあるまか井声もらひむかひのみそちなをえし松を

京　高嶌宜輔

作き見て玉松の枝の影をしうきはくちよをのふれさとまん祭

同　中埜正廣

周防　佐甲久要

松の君が志きしま乃國に木たかしも行く小あまとしは常盤成
松とふ木しそかしの實のひとつぬくそてもえろおの限代
をこふく例まもひとつ手とうかれ志られて絶千代のさえんしむと
人をしもさハまあまとも隼人のさつまの國をしらしめをかてき
君ハあしひきの山鳥の尾の長濱乃津くみすしおもしむくけ
二葉の小戸川さねこして根こ小らして清ら飛来てれ乃
うさ流きしみともつゝゝ急経ひ久しえ抱こ故すし風とも
あとしもむさきものころよこ移て木ぬまてハみもうちを
そう紀木の根よ志土りきこう往て絶冬よ接おほされハとこれ

陽よこつ接さしそひ月よ久示根長くちるぬ千松乃木ちるき
うしとその松乃根長きくこゝとも君ハ常盤よ瀬きんこのやとれ
かいあるよあし世万世よ歌のふとふ松の君かきを
千老日流るの音ゝなくよ此松もちよの此声絶えしまつ色久しくも

京　中埜正道

なつのらん声てなつゝ緑のこあしきへ松こ經て千代のよろこひあふなれ

同　中埜正元

こゝまこゝの紀松を手と世と契りもたゞむ西の舟のこ流もやとる柳を

同　岩松美親

庭の松ましくちるゝ然をよおひて千代ともいく流世をや立こ為

萩　山根温知

千世ふるも八千世をこめぬ万代乃松庭の面に以久よろ川世の松の一もと

京　高島宣陽

影をはのよてふ君もおきまさつて君の為と植く松も千枝あれ

同　高島ふさ子

よろつよを影のさかゆるれや松の八千代のためしくらふる

同　田島守人

枝ことに枝つくまてふけまつくまつの深きことちきり行すゑ

同　弘武

うつくしき松にもちりてあるきみのうちをこさまに八千とせやへん

同　弘孝子

うきしつる君の松乃ちまく末のちとせ坂にさみそあゆみき

同　鳳

一もやまつ子の日の千代を祝ふとて手をそへて君かひくらん

同　岩坊祐文

うゑおきて君か世の影に影かとめをりの千代やいくよ代

同　守中

されのの深きもすさん行末もよはひを祝ふ松そ志るし

冨小路三位殿

枝指千歳地以名色

今世もちとせの何留庭の松猶 政直

武者小路三位殿

千世々も長生繁茂家録長色

第一八千歳未来寺之人帰帰其寳筵

京　蘭溪

としふるみ松のこすゑもあらはれてみとりをもしらぬ深さよりかな

同　遠山一本

秋の風ふきよき秋ふけて人のかけをもちなれ名も松よそれくく

同　井口つき子

世よふかく日本ことゝハのなをも松とこそせく若松の下つけ

同　白拍子ちえ

うちまく人のちよをねらして庭の雪よ千代世志めし松の下かうち家

豊前　保村雪馬

いさ緑しもそちをみなりとめや秋の松

三室戸従三位殿

栄ゆく年経るへき契れなきと
よろひ久しき宿の松の葉　陳光

近く遠くたつきしやしれをしられねなひ申しもとゆかしかる
延齢松の哥文をもなりきこえしふ紙ちも居りとめてを
おほくつもれるまゝに殊更に一巻とあてゝやく天保の十と
せといひしとしに孫も棒にのせけるを此写大るを寛政あん
まりしても十年に近きほとになんおよひぬるそのくちに
あつまれるをたゝし安政の四年といふとし七月に板にゑるを
けるに二十年にさしぬあひよろんことのくさくもしとし月の
あるよしも数おほくつもれる事いよくたのめの松の世々名さの
もなかゆくかとしられくいとよろこひしくとかくくそお
ゆかるよし但をの末にかくなとしてあらさとお集てし

もらさる人の集に入るもすくなからすこの巻の末をはりて
またもし此集にハもらしたるも拾遺にまとむるところハ次々
の巻にゆつるなり

上田光義